

令和2年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

別紙2

| 推薦者 | 団体 | 個人 | 主な功績 |
|-----|---|------------------|---|
| 北海道 | | いしかわ やすし 石川 靖 | 平成3年に道環境科学研究センターに採用され、水質環境科配属に伴い河川、湖沼、海域等の公共用水域の常時監視を通じ道内の水環境の保全に取り組むことに加え、当時、社会問題であった湖沼の富栄養化について大沼や阿寒湖における窒素やリンの栄養塩動態の観点から現象解明の研究を行った。また、休廃止鉱山や六価クロム埋立地から流出する重金属の負荷量に関して実態調査を行い、その成果は対策の基礎資料として行政施策に大きく貢献した。 平成22年に自然環境部に移動してからは湿原の保全・再生事業に関する調査研究も取り組み始め、近年では水環境と生物多様性を融合した視点から農村地域における自然環境の現状と評価に関する研究に取り組むなど、常に新たな調査研究を模索する姿勢は、他の模範とするところになっている。 |
| 青森県 | ひろさきかんきょうばーとなーしゅぶ21 ひろさき環境パートナーシップ21 | | 自然の再生力による自然環境の復元を目指し整備を続けている「弘前だんぶり池(だんぶり:津軽弁でトンボのこと)づくり」を通して、生物多様性の確保及び体験・学習の機会を提供しており、だんぶり池ではこれまで、青森県のレッドデータブックで絶滅危惧種Aランクに指定されているトンボも含め、多種多様な生物が確認されている。また、身近な水環境の全国一斉調査への10年以上の参加など生物調査、水質調査等を継続的に行っている。 |
| 岩手県 | いちのせきしりつむろねにししょうがっこう 一関市立室根西小学校 | | 昭和60年から水生生物調査を継続的に実施しており、県内でも有数の継続年数である。 現在は、津谷川において、4年生が地域のボランティアとともに川の中に生息する生物(指標生物)を調査しており、「きれいな川」と判定されている。 平成4年から、川の清流化の取組の一環として鮭の放流活動を3世代交流事業として実施している。 このような取組は、地域の環境保全の意識高揚に大きく貢献しており、評価に値する。 |

令和2年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

別紙2

| 推薦者 | 団体 | 個人 | 主な功績 |
|-----|---|----|--|
| 栃木県 | もおかかんきょうぱーとなーしつぷがいき もおか環境パートナーシップ会議 | | <p>当会は4つの部会を設置し、水環境保全活動及び啓発(学習会の開催等)を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習事業部会 夏休みに延べ約680名の小学生親子に環境学習会(河川汚染問題など水環境について)を開催。市内の小中学校と協力して、水環境出前講座を実施(昨年12校、858名の生徒に対して授業を実施)。産業祭で河川汚染による悪影響に関する掲示などを行う環境学習会を開催。延べ約1,800名が参加。 ・大久保地区事業部会 水環境保全への取組みとして、大久保川の清掃及びビオトープ池の整備等を実施。延べ約10,550名が活動に協力(延べ約245回実施)。 10月に大久保ふれあい交流会(調査結果公表や水環境保全の重要性を周知)を実施。延べ約1,500名の市内及び近隣市町の方々が参加。 ・エコ・レポーター事業部会 水環境保全への取組みとして、市役所や警察とも連携しながら、延べ約95か所の河川敷等を含む不法投棄現場調査を実施。結果の公表も行っている。 3R推進月間に先駆けてスーパーでマイバックの持参率調査を実施。延べ約120回、延べ約18,850名を対象に調査を行った。 ・広報部会 市民に水環境問題へ関心を持ってもらうため、会報誌を作成。会報誌「ふれあい」を22号まで刊行している。 |
| 埼玉県 | どつきょうだいがく けいざい がくぶ こくさい かんきょうけいざい 獨協大学経済学部国際環境経済 がつか よねやま でんろう がわさいせい む 学科米山ゼミ「伝右川再生に向 けた支援プロジェクト」チーム | | <p>平成25年度から、市民団体、NPO、行政等と連携し、綾瀬川の支川である伝右川の再生・浄化活動や啓蒙活動に取り組み、カヌー体験会、水質調査、生きもの調査、川ガキ体験事業、小学校での環境教育などを実施している。また、平成26年度以降毎年「伝右川再生会議」を開催し、活動・研究発表を行っている。</p> |
| 千葉県 | さかがわをあいするかい 坂川を愛する会 | | <p>会発足以降の長期にわたって、年6回の坂川の河川清掃を実施し、水環境保全の普及活動を実施している。また、年4回坂川放水路付近の神明堀で水質調査を実施し、水環境の実態等の把握に貢献している。</p> |
| 富山県 | やすいむらかた 安居村方 | | <p>安居村方は、昭和60年に地域の「妃の清水(ひのしょうず)」がとやまの名水(富山県選定)に選ばれて以来、毎年「妃の清水」周辺の清掃や周囲の除草等を行っている。「妃の清水」一帯の環境整備によって下流側には水芭蕉が群生し、心安らぐ場となっている。</p> <p>また、年間を通して枯れることのない「妃の清水」に供物や読経を捧げる「水祈願祭」を開催し、水の恵みに感謝するとともに今後の豊水を祈念しており、地域住民の環境保全意識の高揚に大きく貢献している。</p> |

令和2年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

別紙2

| 推薦者 | 団体 | 個人 | 主な功績 |
|-----|--------------------------------------|------------------|--|
| 富山県 | くれはきゅうりょうにほたるをよぶかい 呉羽丘陵にホタルを呼ぶ会 | | 平成18年に呉羽丘陵の一角にある市立動物園「富山市ファミリーパーク」内の旧古沢用水跡地でホタルの群生地を復活させる取組みが始まった際に、地域の自治会や小学校など8つの団体により設立されて以来、毎月1回生息場所の整備や清掃活動を行っている。 また、毎年、ホタルの幼虫の餌となるカワニナを小学生と一緒に放流するとともに、ホタル等の観察会を開催しており、地域住民の水環境保全意識の高揚や子どもの環境学習に大きく貢献している。 |
| 長野県 | ながのけんとうみせいしょうこうとうがっこう 長野県東御清翔高等学校 | | 平成22年から現在に至るまで東御市内の14河川における水生生物調査を実施し、水環境の把握に努めるとともに、調査時にはごみ拾いを行い、水環境の保全に尽力している。 また、調査結果は報告書にまとめられ、市ホームページにて広く市民に公開するとともに、地元の小学校等の環境教育のための資料としても活用され、これらは市民に対し、地域の河川の状況把握並びに水環境の保全に対する啓発に役立っている。 |
| 愛知県 | | みずの きくえ 水野 菊江 | 平成24年4月に生活排水クリーン推進員に着任し、以降8年半にわたり地域の生活排水対策に係る啓発活動において中心的な役割を担っている。 地域住民や他の地区の生活排水クリーン推進員と協働して、廃食用油を使用した石けんづくりを自ら実施する他、地域住民を対象とした石けんづくりの体験講座を実施するとともに、地域の集まりの場で作った石けんや啓発品を配布し、生活排水向上を広く啓発活動している。 |
| 愛知県 | せきだくれんごうちょうないかい 関田区連合町内会 | | 市内を流れる地蔵川沿川の13町内会で構成する関田区連合町内会が、春日井市河川浄化モデル地区の指定を受け、区域内を流れる地蔵川において、年2回の除草及び清掃活動を行うとともに、毎月1回の水質調査及び河川パトロールを行い、地域の水環境の保全に貢献している。 |

令和2年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

別紙2

| 推薦者 | 団体 | 個人 | 主な功績 |
|-----|----------------------------------|-------------------|---|
| 兵庫県 | | いまい ひろこ 今井 ひろこ | 平成16年から永年にわたり、地域住民を巻き込んだ海岸クリーン活動及び小学生の漂着物調査により海岸漂着物問題の解決を訴えるとともに海岸環境保全に関する啓発活動に貢献した。 平成16年の台風23号水害(豊岡市)をきっかけにして、海岸漂着物の回収及びダイバーや釣り仲間と海中のごみを数える調査の実施など当時としてはユニークな活動を展開しており、平成19年には、取組をNPO化して(NPO「たじま海の学校」)活動を現在まで継続している。 平成21年からは、兵庫県と協働して但馬地域の小学生を対象に漂着物調査を実施しており、海岸漂着物に生活系ごみ・プラスチックが多いことを伝え、発生抑制を訴える。 令和元年、NPOとして実施してきたクリーン活動を地元観光協会青年部に引き継ぐことにより活動の幅を拡げている。 |
| 鳥取県 | こていこううんたい 湖底こううん隊 | | 平成26年に「湖底こううん隊」を発足した。目的は、中海の一部を埋め立てて作られた湊山公園の日本庭園において、海水の往来が悪くヘドロによる悪臭の原因ともなっていた池を耕耘により市民の憩える場に戻すことである。発足以来、米子工業高等専門学校と連携した調査研究や周辺地域の一般市民を巻き込んだ取組を展開してきた。 活動は、学生や市民が参加する月1回の「湖底こううん」と年1～2回の住民参加型イベントを継続的に実施してきた。参加者に湖底耕耘の手法を広めるとともに地域の方に身近な自然と触れ合うことのできる環境保全の普及啓発活動となっている。 耕耘により、好気性分解が促されヘドロは減少し、池の悪臭問題は解消された。地元のケーブルテレビや新聞でこの活動を取り上げてもらったり、実践と座学を合わせた耕耘についての学習会の機会を提供したり、地域住民や次世代の担い手となる子供たちへ理解・協力の輪が広がるよう積極的な情報発信に努めている。 また、継続的に生物観察・水質調査等を行い、底質の有機物含有量の減少効果やハゼなど底生生物の出現・増加を確認するなど自然の回復力が復活している実態などを明らかにしている。 |
| 島根県 | | おくむら みのる 奥村 稔 | 長年にわたり、水中の化学物質の分析手法の開発や、水中の化学物質の動態に係る研究等に従事され、多数の論文を発表されるとともに、島根県環境影響評価技術審査会委員として、環境影響評価の対象事業により懸念される、重要な項目である周辺の公共用水域への影響や土壌による濁水影響について、専門である水中の化学物質の動態に係る分野や、土壌が水質へ与える影響などを幅広く、調査方法や調査・予測・評価結果の妥当性を審査頂き、本県の水環境保全行政に資する御意見を頂いた。また、平成15年から現在まで、島根県廃棄物処理施設設置検討専門委員会委員として、廃棄物処理施設が公共用水域に与える影響について、専門である水質及び地下水に係る分野を中心に、有害物質等による水・土壌環境への影響についての御意見を頂き、本県の水環境保全行政に貢献して頂いている。 |
| 徳島県 | とくしましかもなみなみしょうがっこう 徳島市加茂名南小学校 | | 平成10年以降、毎年主に5年生が、学校近くを流れる「袋井用水」で、水質調査を実施するとともに、地域住民と合同で用水の歴史や用途、水環境について学ぶなど、水環境保全・普及啓発に貢献をしている。 |

令和2年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

別紙2

| 推薦者 | 団体 | 個人 | 主な功績 |
|-----|---|----|---|
| 徳島県 | みなみからとどけるわづりかいぎ みなみから届ける環づくり会議 | | 平成19年以降、徳島県南部地域を活動拠点として、地域住民参加型の川の一齐水質調査や小中学校での水環境教育授業等様々な環境啓発事業を行い、小中学生が自分でできる環境保全活動について考えてもらう機会を提供することで、幼い頃からの意識醸成に貢献してきた。 近年では水環境保全への理解を深めることを目的に、県南地域の河川において、小学生を対象にした水質調査を年1回以上継続的に実施している。また、イベント時に水環境保全啓発ブースを出展し、幅広い世代に地域の水環境の美しさ、貴重さを紹介し、その保全の必要性を啓発している、 |
| 香川県 | JFかがわけんぎょきょうせいそうねんぶれ JF香川県漁協青壮年部連絡協 んらくきょうぎかい 議会 | | ・香川県内の漁業者による植樹活動。さぬき市長尾における下草刈り及び植樹活動、並びに公洲森林公園、香川県満濃池森林公園、三豊市宝山湖における植樹祭での植樹活動を行っている。植樹を行うことにより土壌が豊かになり、河川を通じて海へ栄養塩が供給され、豊かな漁場の形成につながっている。 ・豊かな漁場の形成だけでなく、降雨時に土砂崩れを防ぐ等、国土保全及び国民の生命を守ることににおいても重要な活動である。 |
| 香川県 | かがわけんりつほんざんこうとうがっこう し 香川県立飯山高等学校 自然科 ぜんかがくぶ 学部 | | 身近な川に関心を高め、水環境保全活動に理解を深めることを目的に、平成11年及び平成22年以降の11年間にわたり、年に1回(7月)土器川で水生生物による水質調査を県職員とともに行っている。また、平成27年以降5年間にわたり、年に1回(8月)西白方海岸にて磯の生物による水質調査を行っている。さらに、これらの調査結果を文化祭にて展示し、水質保全啓発活動にも貢献している。 |
| 熊本県 | とよのまちみどりのしょうねんだん 豊野町みどりの少年団 | | 10年以上に渡り、団員等で宇城市豊野町浜戸川等の水生生物調査やバックテストによる水質調査を毎年行い、当該地周辺の水環境の把握を行うとともに、その活動を通じて延べ200人以上の参加者に対して地域における水環境保全の普及啓発に尽力されている。 |
| 札幌市 | にしくかんきょうまちづくりきょうぎかい 西区環境まちづくり協議会 | | 札幌市西区を流れる琴似発寒川などにおいて、主に小学生を対象に水生生物観察会を実施しており、川での自然体験学習等を通じて、子どもたちの川の生物についての理解を深めるとともに自然環境を大切にする心を育むなど、地域における環境教育活動の促進、環境意識の啓発に貢献している。 なお、令和2年度には、水生生物観察会で伝えている内容をコンパクトにまとめた動画を作成し、HPで公開しており、学校や家庭における川遊びの教材として活用できるようにしたところである。 |

令和2年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

別紙2

| 推薦者 | 団体 | 個人 | 主な功績 |
|------------|---------------------------|-------------------|--|
| 神戸市 | | おかむら ひでお 岡村 秀雄 | <p>船底や漁網に使用される防汚剤に関する研究、水環境の汚染評価に関する研究、船舶排ガスの粒子状物質に吸着する有害成分に関する研究等、水環境の保全に関する基礎研究に取り組み、多数の成果を上げている。</p> <p>また、これらの水環境保全に関する深い理解と学識を基に、平成19年10月から神戸市環境影響評価審査会(神戸市附属機関)の委員として、環境毒性、海事環境管理の分野を中心に、事前配慮や環境影響評価、事後調査に関する基本的事項及び重要事項を審議いただいている。平成24年には「神戸市環境影響評価等に関する条例」及び「神戸市環境影響評価等技術指針」の改正に係る審議において、環境影響評価の技術・制度の向上などに関する有益かつ先見的な助言をいただいております。水質保全に対する功績は大きい。</p> |
| 北海道地方環境事務所 | あばしりがわりゅういきのかい 網走川流域の会 | | <p>網走川流域の会が主導して、平成28年度から網走川流域の1市3町において同川の一斉清掃を実施し、河川の水環境保全に顕著な功績があるとともに、流域に在住する小学生と保護者を対象として、流域の産業と環境(河川の生物調査、水質調査など)を見て感じてもらうため流域学習プログラムを実施している。さらに、会の設立当初から毎年、網走川流域の環境保全、流域産業振興などをテーマとするシンポジウムを開催し、上流域から下流域の交流を積極的に図り、地域住民の環境保全意識の向上に貢献している。</p> |

団体 17

個人 5

合計 22